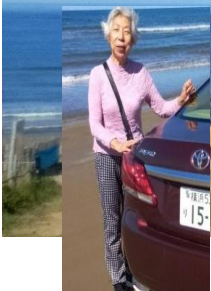


それ行け、海だ！

2021.10.21.

能登半島へ行ってみたいという長年の夢がありました。K 子さんの「軽井沢から富山まで 3 時間で着くから、ここから出かけて、ここに戻ってくれば？」との親切な言葉に甘えて、思い切って3日目の朝、まだ夜が明けないうちに、北軽井沢を出発しました。

そして、5 時間近くかけて、能登半島の西岸「千里浜ドライブウェイ」に到着しました。快晴の空、風はなく、広々と、穏やかに、静かに日本海が広がっていました。海の青さ、空の青さ、風の青さのなかで、優しく寄せる白波だけが弾けていて、他はみな優しく、安らいでいます。夫は眺めるだけで満ちたりたようです。可能なら釣りをしたいでしょう。私はこの砂浜に 8 キロに渡るドライブウェイがあるので、走ってみました。寄せる波のすぐそばを走れる所はほかにあるでしょうか。私も満足。ここから海岸線を巡り、半島突端の禄剛崎の漁師宿「狼煙館」が今夜の宿です。



ドライブウェイを過ぎて、洞窟のある岩浜の「能登金剛」、海に面した斜面に作られた棚田の「白米千枚田」、日本三大朝市と言われる「輪島」、塩田などを見て進みました。行く先々、多くの民家の屋根瓦が黒く光っていました。どの家も清潔感、几帳面さを感じる同じ佇まいには驚きました。ドギツイ看板など、一切ありません。自然を大切にして暮らしているようです。けれどもちょうど中間点の丘陵に北陸電力の志賀原子力発電所(停止中)があり、多くの人が働いていることが分かります。安全で穏やかな人の暮らしと美しい自然とを守るために廃炉にしてほしいです。

狼煙館は狼煙という地区にあります。ここに平家の落人が住み、佐渡と狼煙で合図を送ったとのことでした。宿の前は漁港で、海の向こうに立山連峰が遥かに望めます。夕食は漁師宿と言うような豪快さではなく、素材を生かした品のいいお料理でした。私はさすがに疲れて、すぐに寝ました。



翌朝、能登半島の富山湾側を走りました。途中、見附島の特異な存在感と美しさに感動しました。私の知る津軽の日本海は鉛色をしていました。厳しさと貧しさを感じたものでした。能登の海は優しさと豊かさを感じさせてくれます。お天気が良かったからでしょうか。それとも原発マネー？

帰り道はトンネルの山(?)が待っていました。思い切って能登半島に行って良かった。思い出ページが増えました。